

JK魔法少女は悪の怪人(カイル)の  
同族お嫁さんに墮ちる♡♡

遙か古代、

宇宙より飛来した遺伝子——

それを持つ人間を超越した存在……

それが、怪人。

いつの世も、ひとは違う存在を迫害し続ける…

ひとならざる怪人はまさにその恰好の的であった。

あくる日、怪人たちは徒党を組み、人間たちに復讐を誓った。

それが今日まで続く怪人結社「ヴェノムス」である。



（今回の怪人も封印完了……と）



「今日もあっという間に怪人を倒しちゃったぞ！」

「さすが最強の魔法少女カリンね！」

（キーキー騒ぐことしかできない無力な取り巻き共が五月蠅いわね……）



親友であり、同じ魔法少女でもあった  
スズハを失い、ただひたすら純粹に  
怪人を倒す為の強さを求めた  
カリンは、はどの街の魔法少女と比べても  
比類なき強さを手にしていたー。

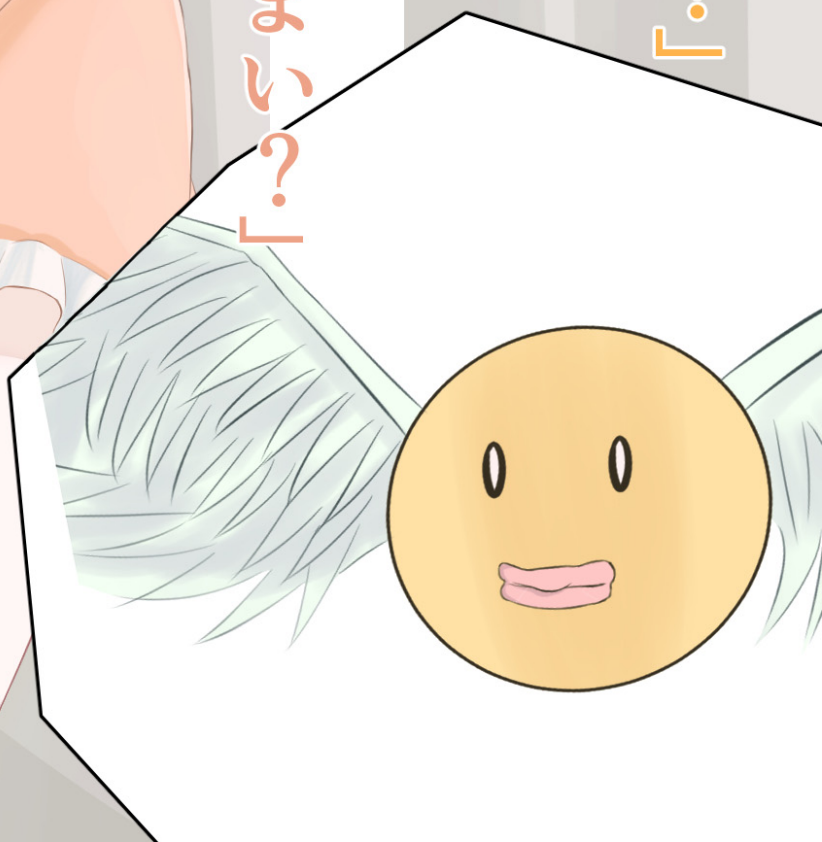


「カリン! さすがだしん!」

「……今日のはこれでおしまい?」

「ひとまずもう怪人の反応は無いしん!」

「……………そう」





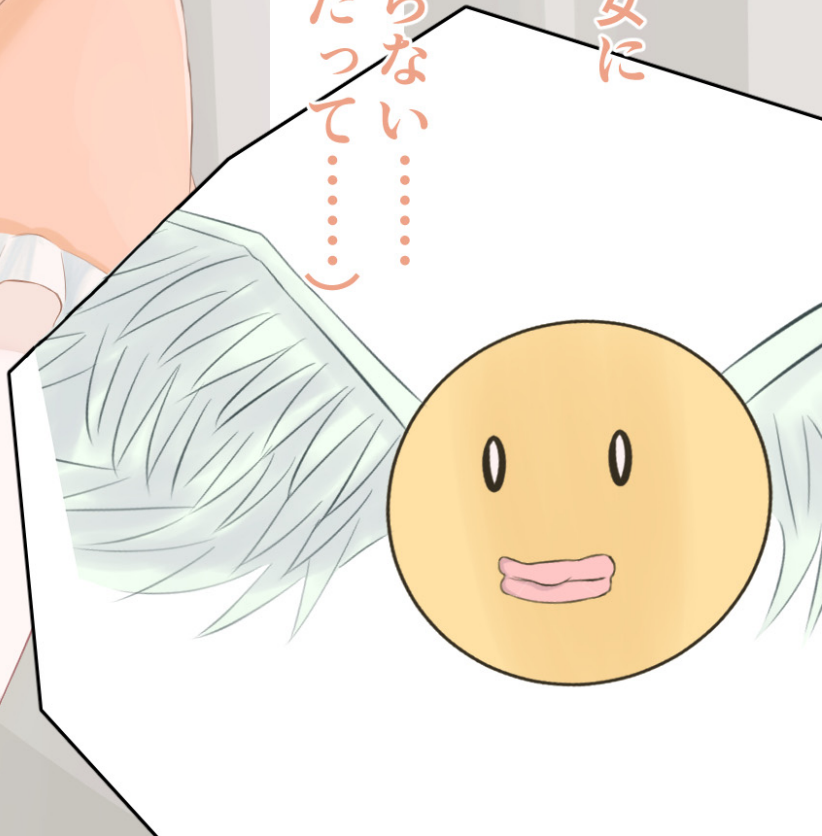
(……こいつは、ウオープル。色んな街で素質のある女の子を魔法少女にしていく役割を持った妖精……らしい。)

正直何考えてるか分からないし信用ならない……こいつがちゃんとしてれば晴香ちゃんだって……)



ボソッ…

「……………はあ、腹が立つ……………」







ノムス

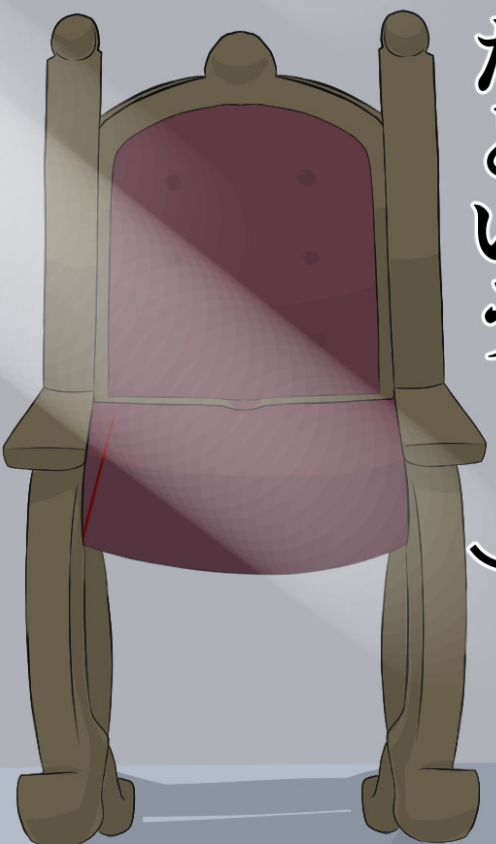


本部アジト

「ボス！○○街で同胞がやられました！」

「……やはりあの街の魔法少女は  
強大か……」

（あの街の魔法少女、**カリン**は、**スズハ**  
を倒したナメルでさえ  
手も足も出なかつたという……）



「そうだな、そろそろ俺が直々に……」





「  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
」





「ボスが行くまでもないゲコ。  
俺がその魔法少女、ぶっ倒してきてやるゲコ」

「む、フログ……貴様△△街の制圧はどうした？」

「勿論ミッションコンプリートゲコ。  
それより△△街の魔法少女が弱くてなあ  
準備運動にもならんかったゲコ」

「○○街にはめっちゃくちゃ強い魔法少女がいるんゲコ？  
戦ってみたいゲコねえ……」



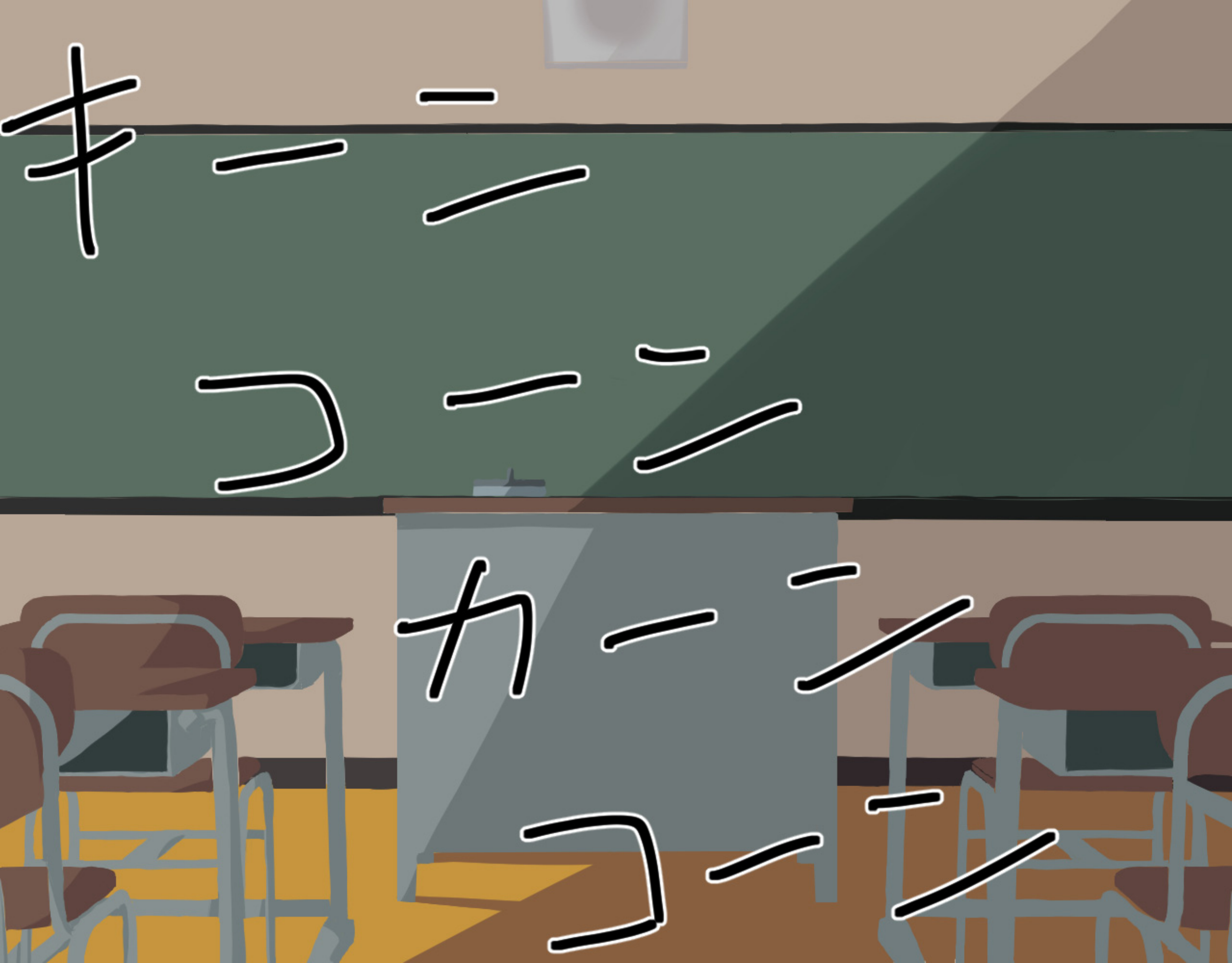
「……確かに、戦闘力ではヴェノムスでも  
1、2を争うお前ならば任せられるかもしれんな……」

「ゲココオ」

「うむ、○○街の魔法少女の討伐、お前に任そう」

「了解ゲココオ、必ずや最強の魔法少女討伐してみせるゲココ」

(ゲコココ……そんなに強いのなら俺の嫁探しもこれで終われるゲココかねえ……)



キ

一

一

一

コ

一

一

一

カ

一

一

一

ク

一

一

一



「じゃあこの問題を、夏鈴さんお願いするわ」

ぽ〜〜

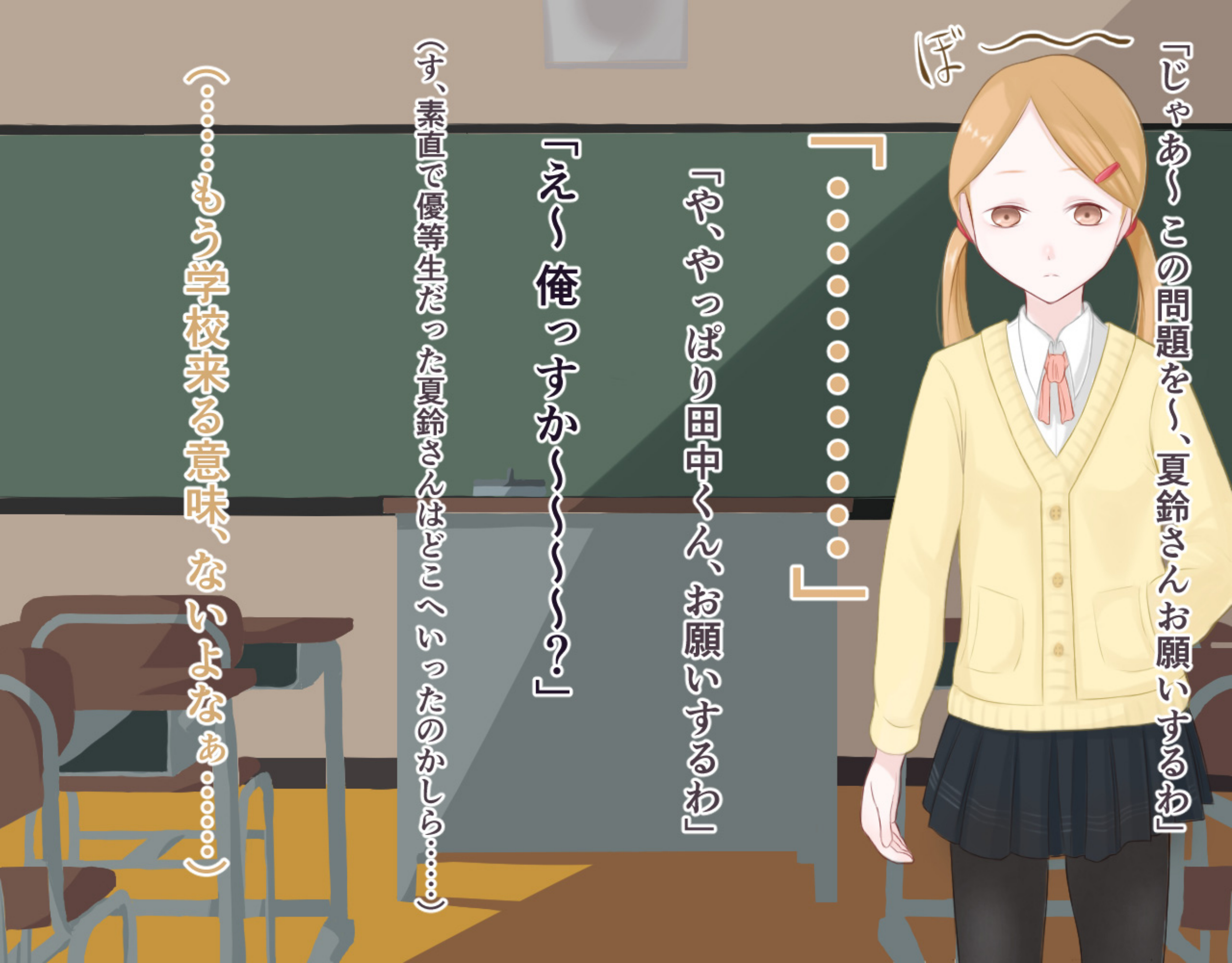
「……………」

「や、やっぱり田中くん、お願いするわ」

「え〜俺っすか〜?」

（す、素直で優等生だった夏鈴さんはどこへいったのかしら……………）

（……………もう学校来る意味、ないよなあ……………）



「……先生」

「はっ、はい何かしら、夏鈴さん？」

「気分悪いので保健室行ってきます……」

「え、ええ……お大事に……」

が  
ら  
が  
ら





「花澤のやつ、最近まで優しくて明るかったのになあ……」

「俺なんか狙ってたのに」

「でも今の花澤も……あれはあれで……」

ガ  
ツ  
ガ  
ツ

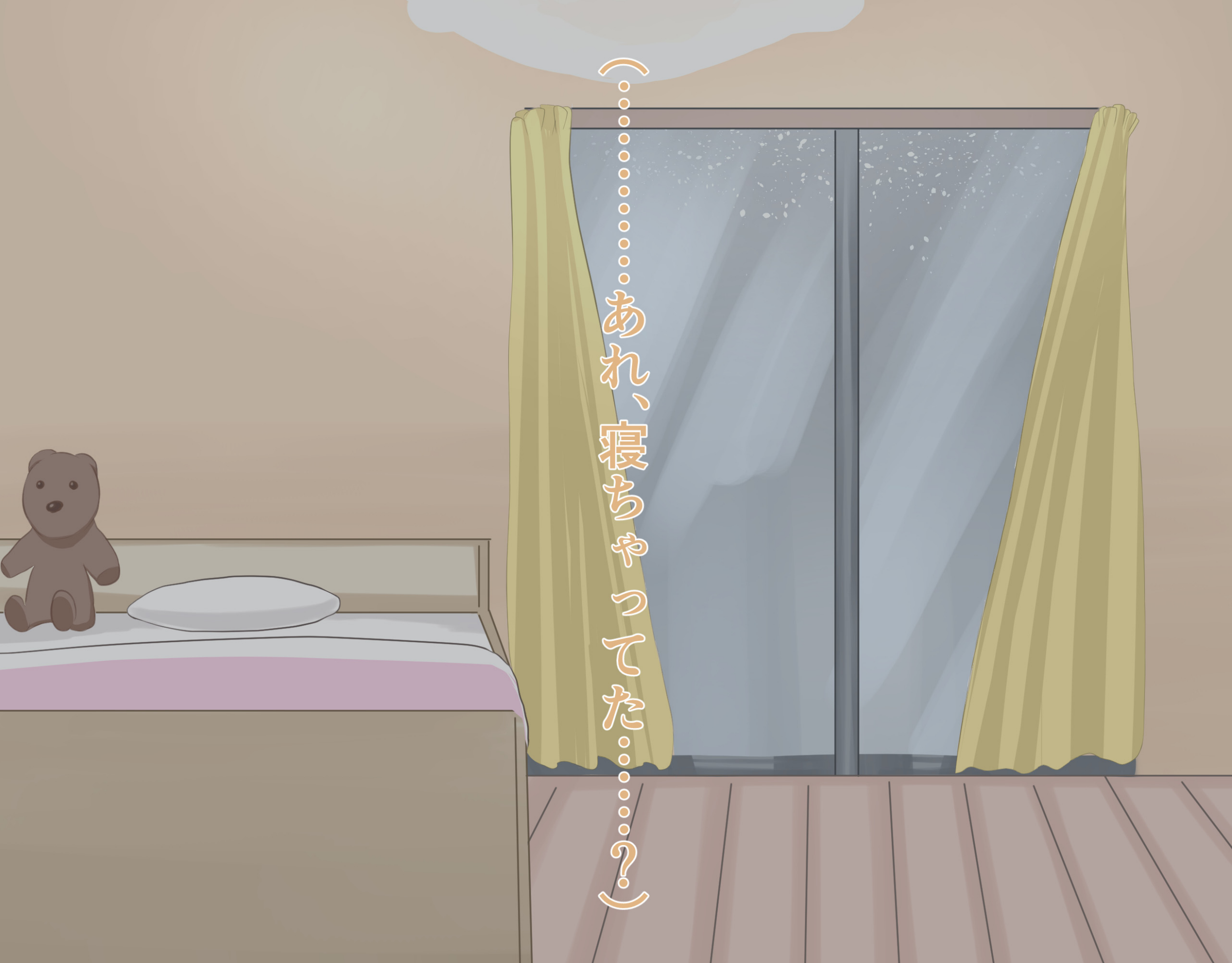
「夏鈴ちゃんどうしちゃったんだろう……」

「最近無口だし……目も怖いよね……」

「……晴香ちゃんが行方不明になってから……だよね？」







あれ、寝ちゃってた...?  
あれ、寝ちゃってた...?



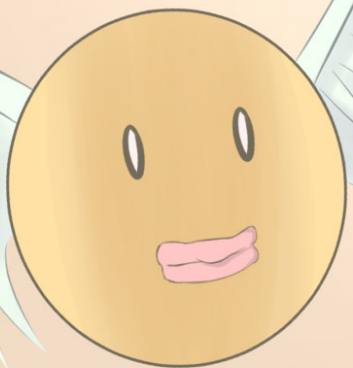
「今は23時だしん！」

「じゃあ見回りに行くしんよ！」

(いつもながら勝手に人の家に……こいつ……)

「……シャワーくらい浴びさせてよ」

「今夜はそうもいかないしん」



「……なんでよ……」

「何やら近くの街の魔法少女が立て続けに  
やられているらしいしん」

「……」

「それでここから一番近い街の  
魔法少女が今しがたやられたしん」





「でも、そんなに何個も街がヴェノムスに制圧されたとなると  
もつとニューースになってるはずだけど」



「それが、街自体の被害は全く出ていないらしいしん。  
どうやら今回の怪人は魔法少女を倒すことだけが目的らしいしん」

「へえ……腕に自信アリって感じね、久々に全力が出せるかしら」

「……油断は禁物しんよ……」





「さすがにこの時間になると  
街に人はいないゲコね……」

「さーてどうやって  
魔法少女を呼び寄せるゲコか……」





「その必要はないわ」



「ゲコココ、そちらから出向いてくるとは  
中々殊勝な心がけゲコ……」

「ゲコお、顔良しスタイルまあ良し  
性格はまあ後から知れば良し。  
あとは強さゲコね、試してやるゲコ、来な」



（完全に私を舐めてるわねこいつ……）



「カリン……この怪人今までのどの怪人よりも  
強いしん！それも……**圧倒的に！**」

「そう……上等じゃない！」

（ゲココオ、声がいいゲコねえ、  
あと性格は強気かなゲコ？）





(ヌツ、この魔法少女……)

(くっ……この怪人……)

(強い……!)

(強い……!)



「はあはあ……」

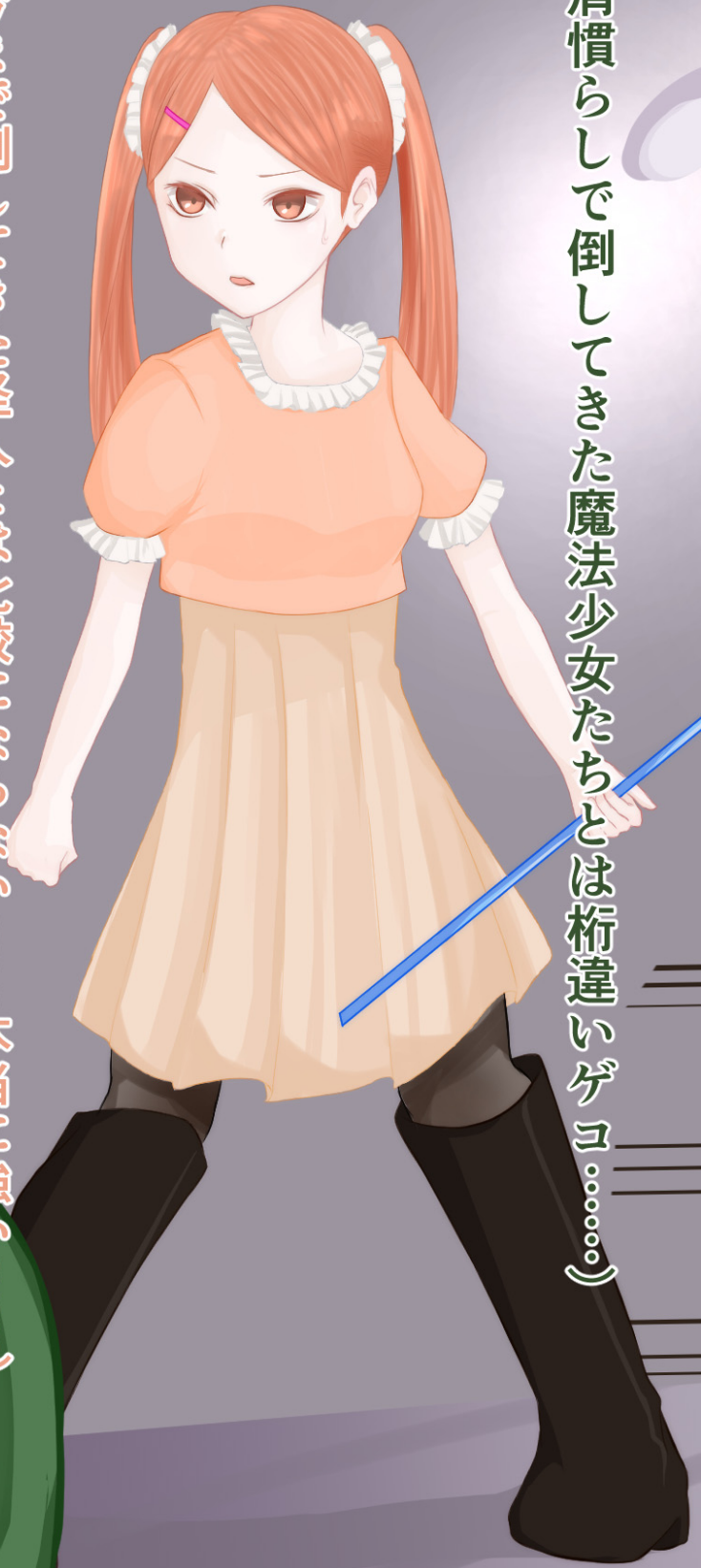
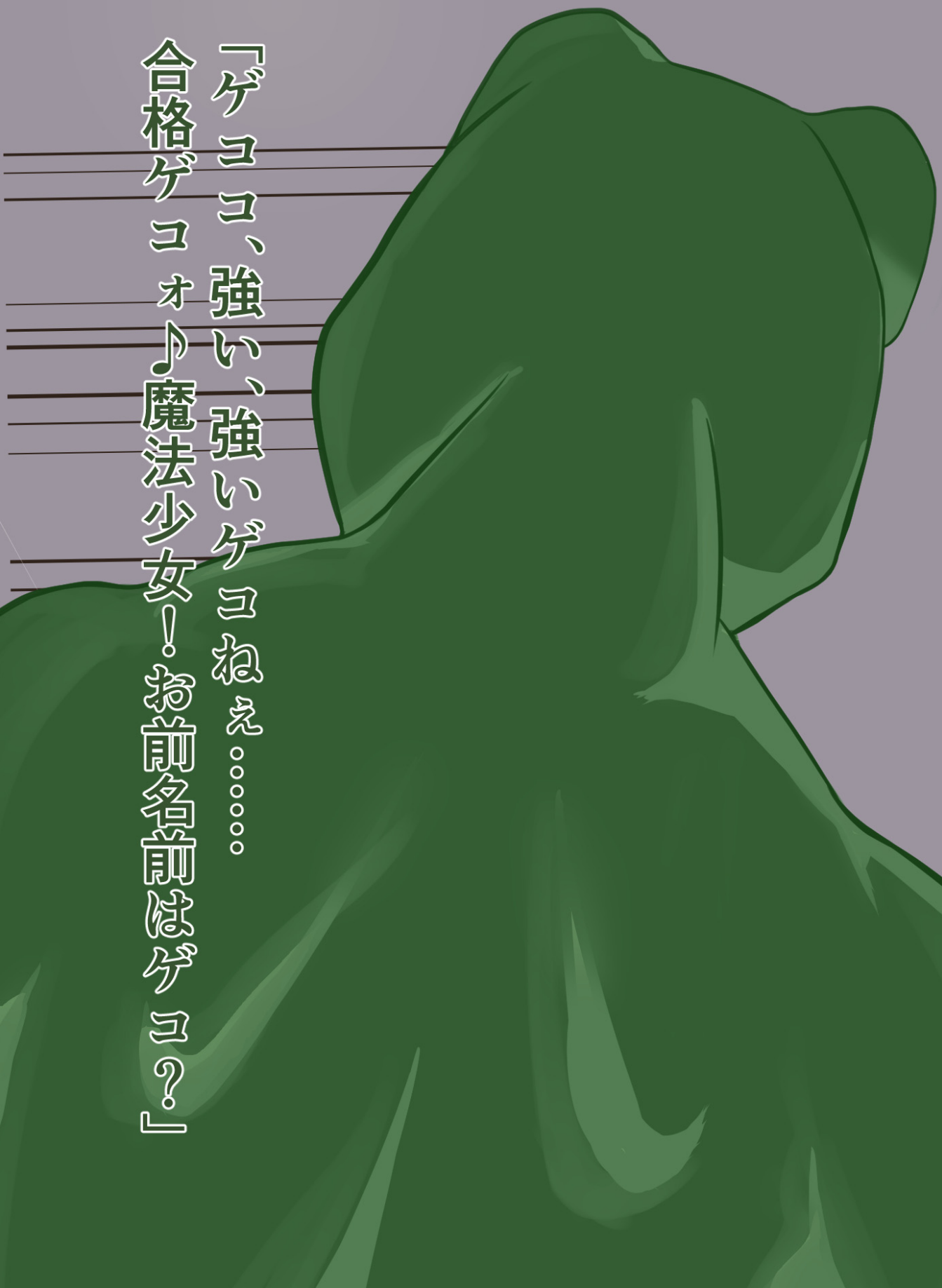
「はあはあ……」

（肩慣らしで倒してきた魔法少女たちとは桁違いゲコ……）

（今まで倒してきた怪人とは比較にならない……本当に強い……）

「ゲココ、強い、強いゲコねえ……」

「合格ゲコオ♪魔法少女！お前名前は何ゲコ？」





「……カリン」

「カリン……良い名ゲコォ♪」

「でも俺のヨメになるなら……そうゲコ  
……アマガ、アマガが良いゲコねえ……」

（こいつ……何を言ってる……）

（そういえば晴香ちゃんも……ナメルだかナメクだか……）

「ゲコオオオオオおおおお」

ヒュツ

「くっ……」

（パワーじゃ分が悪いわね……）

（カリン……疾いゲコ……）

（でも……いつとの戦い……）

（カリン……いつと戦うの……）

（楽しい……ッ！）

（楽しいゲコ……ッ！）

ドッ

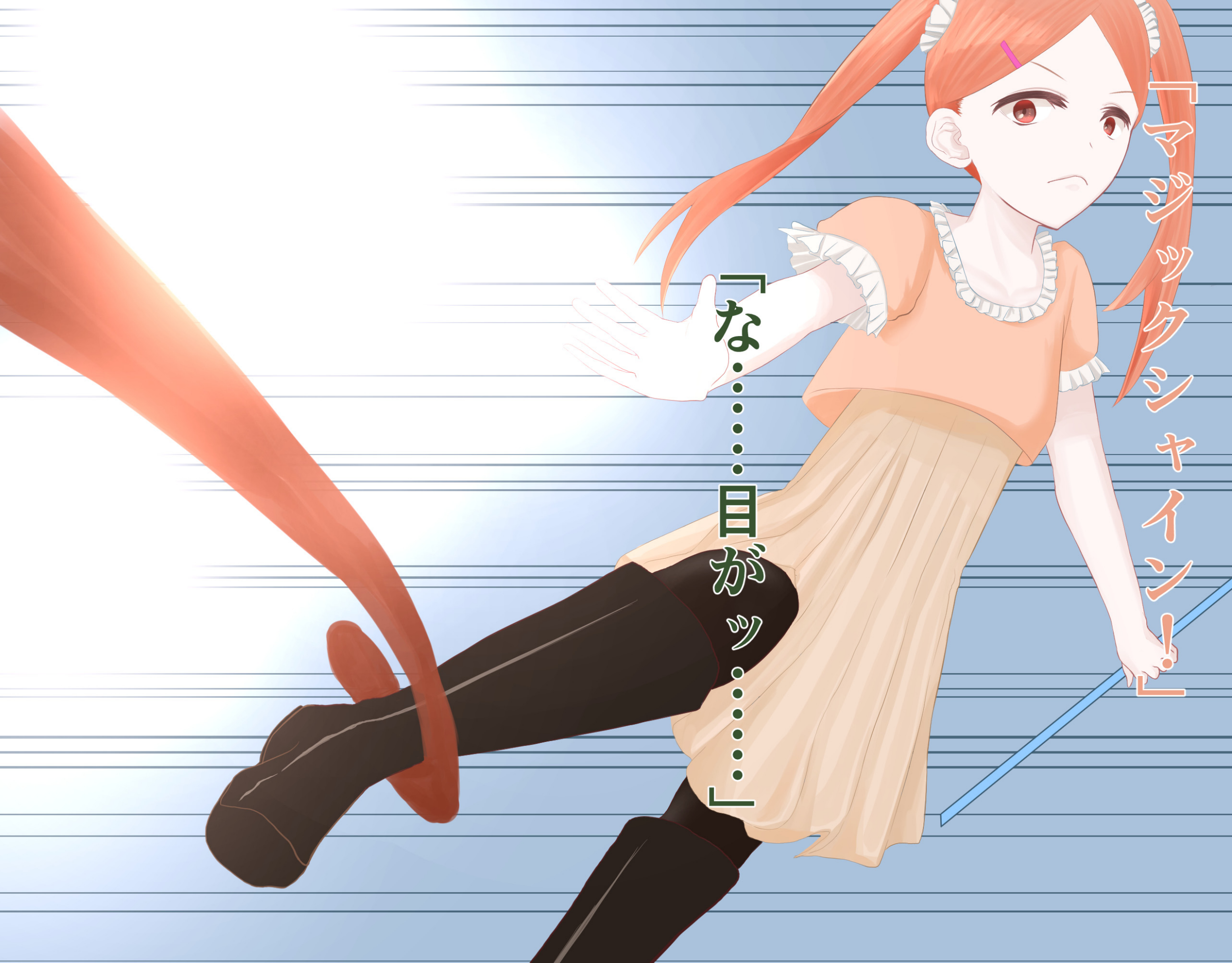


「ゲコッ！」

(な……こいつ舌がッ……)

ヒ  
ム  
ル  
ル  
ル

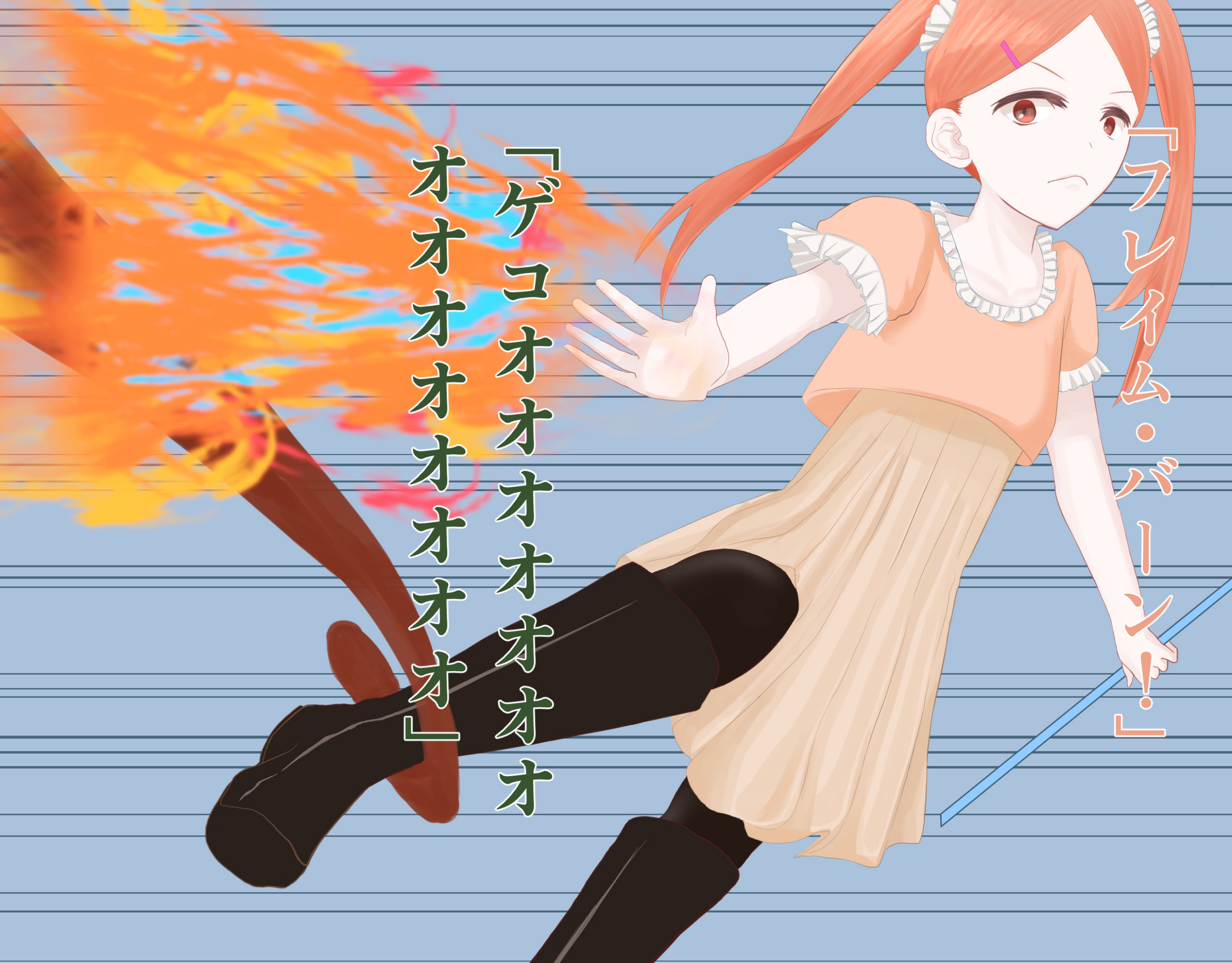
「楽しい時間だったが……そろそろ終わりゲコ！」



「マジックシャイン！」

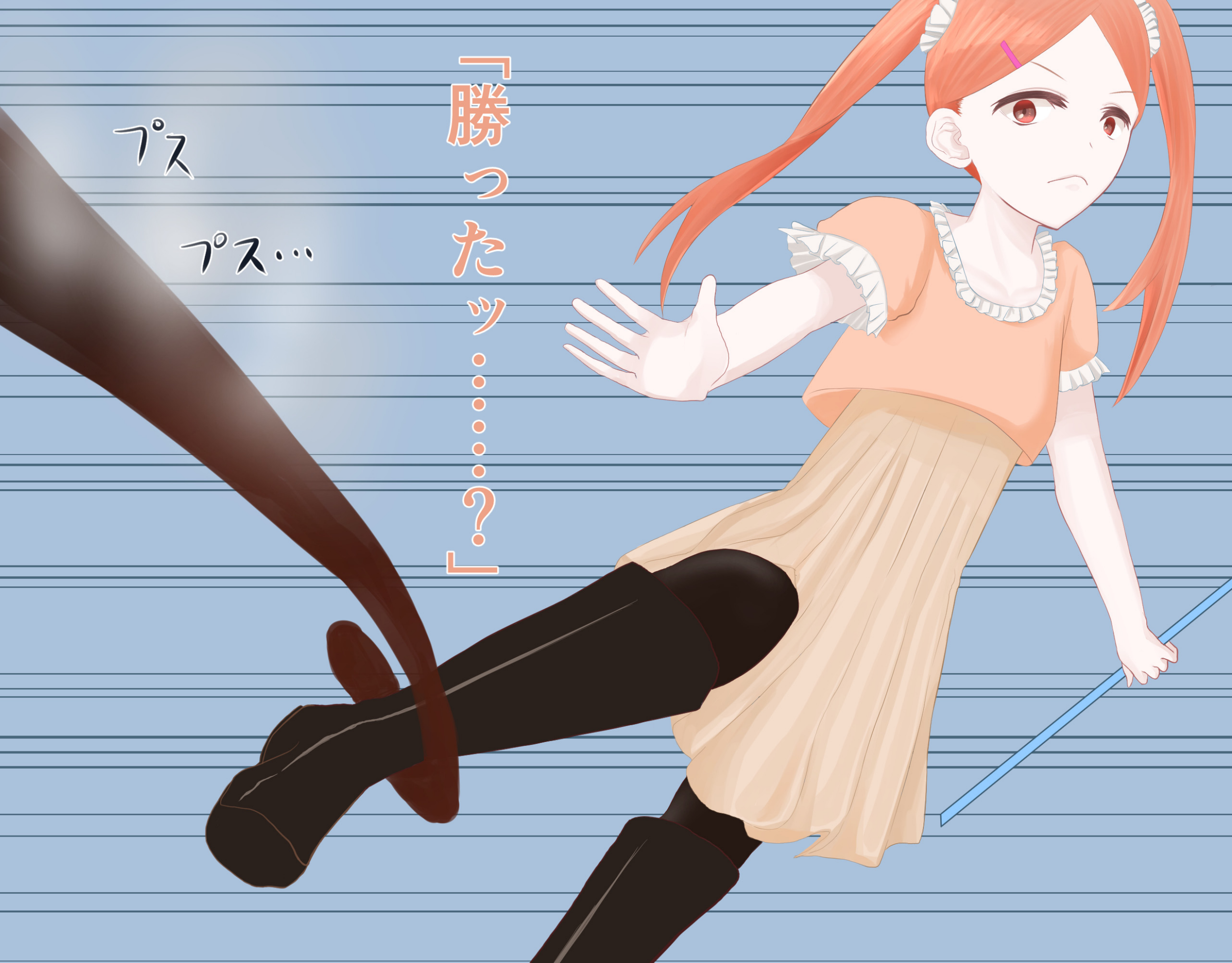
「な……目がツ……」





「ゲコオオオオオオオオ  
オオオオオオオオオ」

「フレイルム・バーン！」



プス

プス...

「勝ったッ.....?」



「かはっ……」

（ヤバイ、モロにもらった……意識が……）

「はあ……はあ……あ、危なかったゲコ……  
カリン……正真正銘最強の魔法少女だった  
ゲコ……」







「俺のヨメにふさわしい

メスゲコオ♪

ゲコココココココ」

（よ、ヨメ………？

わたし、まけ………）

（………）

ガクッ